

国衙・郡衙・古寺跡等
範圍確認調査報告書 V

1996・3

宮崎県教育委員会

序

埋蔵文化財の保護・活用につきましては日頃から深いご理解をいただきお礼申し上げます。

さて古代における地方政治の中心的役割をはたした政庁跡（国衙・郡衙）等は本県においては国分寺を除いてその位置が明確にされていませんでしたが、県教育委員会では昭和63年度から平成2年度の3か年、国庫補助を受けて国衙・郡衙・古寺跡等遺跡詳細分布調査を実施しました。その結果、西都市大字妻、同右松周辺の稚児殿池と都萬神社にはさまれた寺崎一帯が可能性の高い地域としてとらえられるようになり、また、国分寺跡周辺の確認調査でも建物跡を検出するなどかなりの成果がありました。

そこで平成3年度から5か年計画で引き続き国衙・郡衙・古寺跡等の範囲確認調査を実施することになりました。今年度はその5年目として寺崎遺跡の4次調査および諏訪遺跡2次の試掘調査を実施し、建物の一部が検出されるなど大きな成果を得ることができました。

本書は、5か年の範囲確認調査の成果を中心にまとめたものであります。今後の調査研究の基礎資料として各方面で御活用いただくとともに、保護啓発のための一助となることを期待します。

平成8年3月

宮崎県教育委員会

教育長 田 原 直 廣

例 言

1. 本書は、宮崎県教育委員会が国庫補助を受けて、平成3年度から平成7年度の5か年に実施した国衙・郡衙・古寺跡等の範囲確認調査の調査報告書である。
2. 平成7年度の確認調査は県文化埋蔵文化財第一係主事橋本英俊が担当した。調査区は、西都市大字右松2801～2802他を対象に、平成7年6月22日から11月30日の間実施した。
3. 本書の執筆は、第2章永友・橋本が担当し、編集は橋本が行った。本報告では、S E・溝、S H・柱穴の略記号を用いている。
4. 調査にあたっては、調査指導委員会の委員や特別調査員の先生方にご指導いただいた。また、西都市教育委員会をはじめ、県立妻高等学校、県総合博物館、同西都原資料館にはいろいろご協力いただき、記して感謝する次第である。
5. 諏訪遺跡については、平成元年に詳細分布調査の一環で行われているため今回2次調査とする。
6. 地下探査については、応用地質株式会社に委託した。
7. 確認調査で出土した遺物は県総合博物館埋蔵文化財センターにおいて、整理・保管している。

本文目次

第1章 はじめに	1
第1節 調査の経緯と組織	1
第2節 西都市周辺の地理的歴史的環境	4
第3節 調査の概要	4
第2章 範囲確認調査の結果	6
第1節 童子丸遺跡	6
第2節 上妻遺跡	6
第3節 寺崎遺跡	7
第4節 諏訪遺跡2次	7
第3章 まとめ	10

挿図目次

第1図 日向国府推定地および周辺遺跡位置図	2
第2図 国衙・郡衙・古寺跡等の関連調査トレンチ配置図	5
第3図 寺崎遺跡1～4次調査区	8
第4図 寺崎遺跡2・3次建物想定図	9
第5図 出土遺物実測図	11

第1章 はじめに

第1節 調査の経緯と組織

調査の経緯

古代の日向において政治の中心的役割を果たした政庁跡（国衙・郡衙）に関する考古学的資料は、皆無であり、僅かに国分寺跡のみが昭和23年と36年の調査により所在が西都市三宅で明確になっているのみである。また所在地の目安となる奈良・平安時代の布目瓦は西都市6か所、佐土原町3か所、宮崎市2か所、えびの市1か所、延岡市1か所の計13か所で確認されている。このうち西都市内の推定地は、西都市三宅の印鑰神社北側（推定地B）、西都原台地と沖積地との間に広がる中間台地上の寺崎から都萬神社一体（推定地D）、沖積地の市街地一帯の妻周辺（推定地D'）、その南の右松周辺（推定地C）である。近年、この周辺は、都市化が進み、区画整理事業の計画等により遺跡の破壊が懸念される。

そのため、早急にその所在地と範囲を明確にし、遺跡保護のための基礎資料を作成する必要がある。よって宮崎県教育委員会では昭和63年度から3か年計画で国庫補助を受けて国衙・郡衙・古寺跡等遺跡詳細分布調査を実施した。

遺跡詳細分布調査では県内の西都市をはじめとする布目瓦出土地や佐土原町を中心とする瓦窯跡の分布や試掘調査を実施した。その結果、国府所在地として可能性の高い西都市の推定地については稚児殿池と都萬神社に挟まれた中間台地の推定地D（上妻～刈田）から軒丸瓦や布目瓦が確認され有力な候補地として浮上してきた。同じく中間台地上の推定地B（三宅）からも軒丸瓦や布目瓦が出土しているが、前方後円墳や円墳が点在していることや占有地の狭さなどから可能性は低いと考えられる。

一方、沖積地に広がる推定地C（右松）・D'（妻）は立地的に困難であり推定地から除外しても問題ないと思われる。また、関連資料として、平成元年の国分寺周辺の確認調査では「僧坊」と推定される2間×5間以上の掘立柱建物が検出され伽藍配置の一部が明らかにされた。さらに、国分寺跡・寺崎遺跡出土の凸面横縄目叩きの平瓦と須恵器は、佐土原町教育委員会が試掘調査をおこなった下村窯跡群で生産された可能性が高まった。

これら遺跡詳細分布調査の結果をふまえ、県教育委員会では、平成3年から5か年計画で国庫補助を受けて推定地Dを中心とした国衙・郡衙・古寺跡の範囲確認調査を実施することとした。

推定地Dの東端にあたる都萬神社周辺の上妻遺跡の確認調査では、寺崎地区とは異なり格子目叩きの瓦が出土している。その中には豊前金剛宝戒寺（大分市）と同範の可能性の強い白鳳様式の百濟系瓦（単弁八葉蓮華文軒丸瓦）が見られ、初期の国衙あるいは氏寺が想定される。

調査の組織

平成7年度の調査体制は以下のとおりである。

調査主体 宮崎県教育委員会 教育長（田原直廣）教育次長（八木 洋）教育次長（中田 忠）文化課長（江崎富治）課長補佐（田中雅文）主幹兼庶務係長（高山恵元）主査（宮越 尊）埋蔵文化財第一係長（面高哲郎） 関係市町村教育委員会

指導監督 文化庁 **調査指導委員会** 小田富士雄（福岡大学人文学部教授） 山中敏史（奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター研究指導部集落研究室長） 野口逸三郎（宮崎県文化財保護審議会会長） 日高正晴（西都市西都原古墳研究所所長） 永井哲雄（県史編さん室） 阿萬美水（宮崎県立宮崎農業高校教諭）

調査員 長津宗重（平成3・4年度担当 県総合博物館埋蔵文化財センター主査） 永友良典（平成5年度担当 県文化課埋蔵文化財第一係主査） 橋本英俊（平成6・7年度担当 県文化課埋蔵文化財第一係主事） 池田伸二（県史編さん室主任主事） 近藤協（県総合博物館主査） 簗方政幾（西都市教育委員会社会教育課主事） 木村明史（佐土原町教育委員会 社会教育課主任主事） **特別調査員** 日野尚志（佐賀大学教育学部教授） 永山修一（鹿児島ラサール高等学校教諭）

表：国衙・郡衙・古寺跡等関連調査一覧（昭和63年度～平成7年度）

年次	調査	内 容	備考・関連事項	文献	
昭63	遺跡詳細分布調査	県内分布調査	布目瓦出土地	文献1	
平元		国分尼寺跡確認調査	(西都市・佐土原町・宮崎市・えびの市・延岡市)		
		分布調査(西都市)	2×5間以上の建物跡「僧坊」?		文献2
		国分寺跡確認調査			
		上尾筋遺跡確認調査			
			下村窯跡試掘調査(佐土原町教育委員会)	文献8	
			遺跡所在地確認調査(西都市教育委員会) (上尾筋遺跡・下尾筋遺跡)	文献9	
平2		分布調査(佐土原町)			文献3
		寺崎遺跡	遺跡所在確認調査(西都市教育委員会) (上妻I・J、童子丸Aa・Ab・B、法元H・K、寺崎E・F)	文献10	
平3		範囲確認調査	童子丸遺跡第1地点	下村窯跡調査(佐土原町教育委員会)	文献4
	童子丸遺跡第2地点				
	上妻遺跡				
平4	上妻遺跡A地点		単弁8葉蓮華文軒丸瓦	文献5	
	上妻遺跡B地点		石帯		
平5	寺崎遺跡2次			文献6	
平6	寺崎遺跡3次		文献7		
平7	寺崎遺跡4次				
	諏訪遺跡2次(国分尼寺跡推定)				

第2節 西都市周辺の地理的歴史的環境

各年度における範囲確認調査の結果については、概要報告書にゆずり、ここでは日向における国衙・国分寺・国分尼寺推定地の立地する地理的状况について述べる。

日向国府・国分寺・国分尼寺が立地すると推定される地域は、標高約12mの沖積平野部と西都原古墳群の立地する西都原台地とに挟まれた標高20～26mの中間台地にあたり、大小幾つかの谷により遺跡の立地が制約されている。中でも最も大きなものは、現在の稚児殿池から北に湾曲して延び源泉の児湯の池にいたる谷である。法元、寺崎地区は、この谷によって区切られた沖積平野部までの間に広がる中間台地であり、古墳時代から古代にかけての土師器、須恵器等がまんべんなく表採され多くの瓦が採集されている。

国分寺の北側と南側及び国分尼寺推定地の北側にも小さい谷が入り込んでおり、寺域に制約を加えていると見ることができのではないだろうか。またこの区域は、西都市内でも最も多くの布目瓦を出土する場所である。

中間台地の南の先端部近くには印鑰神社が位置し、国府推定地の一つとされ、平成元年度の県教育委員会及び西都市教育委員会の試掘調査によっても布目瓦の出土が認められている。しかし、出土量としては少なく、前方後円墳や円墳の一つの密集地域でありまた、占地面积としては狭いと考えられる。

第3節 調査の概要

平成7年度は範囲確認調査の最終年度にあたる。

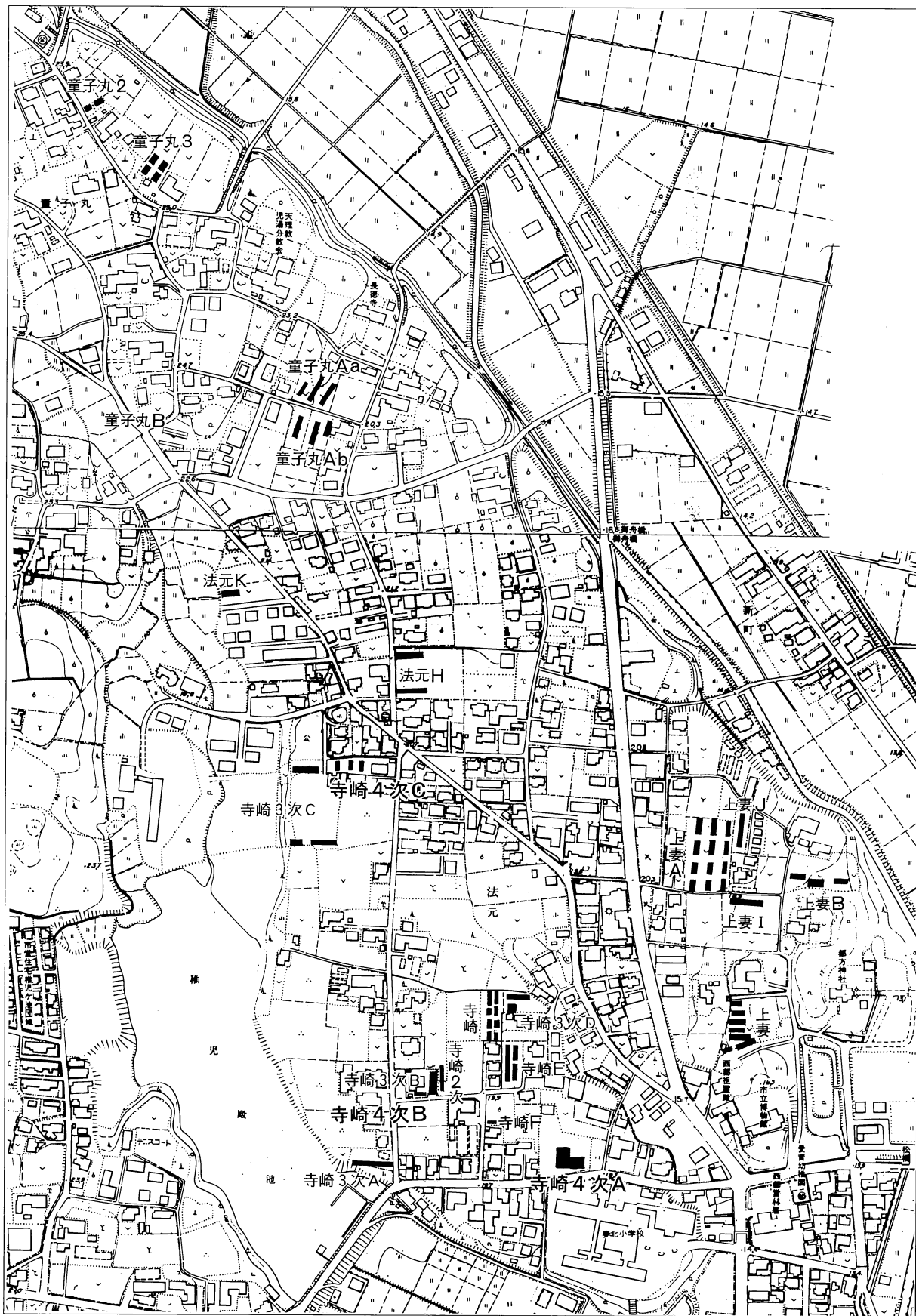
今年度は、調査指導委員会で指摘があった都萬神社と稚児殿池に挟まれた寺崎地区の南側と西側および国分尼寺推定地（諏訪遺跡）について調査を行った。

今年度寺崎地区は、稚児殿池～妻北小学校～都萬神社の区域の南端にあたるA地区と稚児殿池の北東に位置するC地区の確認調査と昨年度、南北方向の区画溝・2間×4間以上の東西方向の掘立柱建物が検出された寺崎3次B地区の南側の茶畑部分（寺崎4次B地区）について、地下レーダー探査を行った。

調査の結果、C地区で、2.5mの東西方向の溝状遺構とその北側約2mに位置する溝状遺構が検出された。またB地区では、南北方向に続くとみられた溝が、20mほどの地点で稚児殿池からの砂礫層を避ける形で東西へ屈曲するものと推定された。

また、本年度はA地区を中断し、平成元年度に調査が行われた国分尼寺推定地である諏訪遺跡の2次調査を行った。調査の結果、南北に並ぶ一辺約1mの方形の柱穴や、推定地東端で幅約4m深さ約1.5mを計る何らかの区画を示すと考えられる南北に伸びる溝状遺構が検出された。

調査指導委員会は、平成7年10月16日に開催し、5か年の調査の成果の評価について指導・助言を受けた。また平成8年2月7日～8日に特別調査員として永山修一氏に文献を踏まえた指導を頂いた。



第2図 国衙・郡衙・古寺跡等の関連調査トレンチ配置図 (1 : 7,500)

第2章 範囲確認調査の結果

第1節 童子丸遺跡（平成3年度）

西都市教育委員会による平成2年度の試掘調査によってA a地点で凸面横縄叩きの平瓦が出土し、国府の北限が広がる可能性がでてきた。そこで、国府の北限を把握するため、A a地点（童子丸遺跡の一角）により北東部を3か所調査を行ったが、古墳時代の堅穴住居が検出されただけで、国府関係の遺構・遺物は検出されなかった。

西限については西都市教育委員会のK地点で道路状遺構と共に格子目叩きの瓦が出土している。

第2節 上妻遺跡A・B地区（平成3・4年度）

東限の確認を主眼において調査を行った。A地点は平成2年度に西都市教育委員会が調査を行い複弁12葉軒丸瓦が出土したI地点からは北西に約10m離れている。

調査の結果、奈良時代の遺物として、平瓦は凸面格子目が主体であり凸面横方向叩きはわずかしかない、単弁8葉蓮華文軒丸瓦が出土したことは特筆される。須恵器の中には、転用硯は出土したが、硯・墨書土器は出土していない。当時期の遺構はほぼ東西方向に伸びる溝状遺構が検出されたが、掘立柱建物が完全に復元できるものおよび方形プランの柱穴は検出されなかった。B地区はA地区の東約40mで、一ツ瀬川右岸に広がる沖積平野部に位置する国府推定地Dの東端部にあたる。調査の結果、A地区と同様凸面格子目叩きの平瓦を主体とし、石帯が出土している。遺構としては、当時期の可能性のある一辺90cmの方形プランの柱穴が検出されたが掘立柱建物が完全に復元されるものはない。

また両側に溝状遺構を付帯し南北方向に伸びる小砂利を敷きつめた道路状遺構を検出した。

第3節 寺崎遺跡（平成5・6・7年度）

平成2年度の寺崎1次調査で、畿内地方の搬入土器である螺旋状暗文を施した土師器が出土し、東西方向に伸びる方形プランの柱穴が検出されている。

国府の西限と寺崎2次調査の結果検出された建物（回廊）・柵列（塀）の伸びを確認するため調査を実施した。A地区は、稚児殿池と中間台地の境であるが、自然礫層まで攪乱が達しており、遺構・遺物は見られず西限の確認には至らなかった。B地区ではT3でSH-1=SH-2とSH-3=SH6が並び柱間350cmの一間の細長の建物（回廊）と想定されていたものが、妻柱としてSH-15が検出され梁行2間×桁行4間以上の東西に主軸を持つ掘立柱建物であることが確認された。建物の東側は、茶畑へ続いていると考えられる。西側は、茶垣の幅150cmを残して近づけたが柱穴は検出されず建物はT3西側で完結していると考えられる。T5で布目瓦や、奈良・平安時代の須恵器を比較的多量に出土するSE4が検出され、区画溝としての性格が想定される。溝内からは墨書による文様を持った須恵器が出土している。D地区では、平成2年度の寺崎一次調査で東西に主軸を持つ方形プランの建物の一部が検出されているが、平成6年度の調査でも柱間240cmを測り南北方向に並ぶ方形プランの柱穴を検出している。遺物として朱書用と推測される須恵器皿の転用硯が出土している。

平成7年度は、都萬神社と稚児殿池に挟まれた寺崎地区に絞って確認調査を行った。C地区（一部法元にふくまれる）で、幅2.5mの溝が検出された。溝の北側約2mの位置にも溝状遺構が検出されたが住宅地との関係から全体を把握することはできなかった。B地区では、平成6年度に幅約2mアカホヤ検出面から深さ約90cmを計るSE4が検出されたが、南側の茶畑に続いており、地下レーダー探査を実施した。その結果、畑の中央付近約20mのところ稚児殿池から伸びると考えられる砂礫層が分布し、それを避けるような形で北側から南側に連続する溝状の遺構と考えられる反応があり茶畑中央で東側に屈曲し、3次調査で確認された区画溝の方向と合致する結果を得ている。

第4節 諏訪遺跡2次

諏訪遺跡は日向国分尼寺推定地とされており、平成元年県教育委員会が詳細分布調査を実施している。現在、推定地は、高等学校の敷地内となっている。今回の調査は、グラウンド部分について行った。推定地は、北側の谷から3段の段差を有しており、調査対象地は最も南に位置する。調査の結果、東側部分で幅約4m、深さ1.5mを計り当該期の土師器を多量に出土する南北方向の溝状遺構が検出され、寺域の一部を区画する溝と想定される。また、一辺約1mの方形の柱穴を数個検出したが、一棟の掘立柱建物として復元できるものはなかった。

遺物

ここでは、寺崎4次調査および国分尼寺推定地である諏訪遺跡（2次）の遺物を図示する。

1、土師器（第5図1～12）

土師器としては、1・12のようなヘラ切りの杯や3・4・10・11のような高台付椀、6・7・8・9のような皿が出土している。ヘラ切り底の坏は、平底に直線的に開く体部がつくタイプで、法量では12のように口径15.5cm、器高4.7cm、底径7.6cm I-A-1類に属する。3が、直線的に開く体部と長い高台を有するのに対して、4は短い高台とやや緩やかに開く体部を有する。8は口径9.8cm器高1.8cm底径6.9cmで、それ以外の皿は底径は、6が5.7cm、7が4.8cm、9が7.2cmである。5は、口径14.8cm、器高10.6cm、底径9.1cmの台付ハチである。今回の調査では、土師皿の出土が多く見られた。

2、須恵器（第5図13）

13は、口径12.4cm、器高4cm、底径8.8cmを計り、高台の外側が地に着くタイプで、直線的に開く体部は口縁部でわずかに外反する。

3、瓦（第5図 1～6）

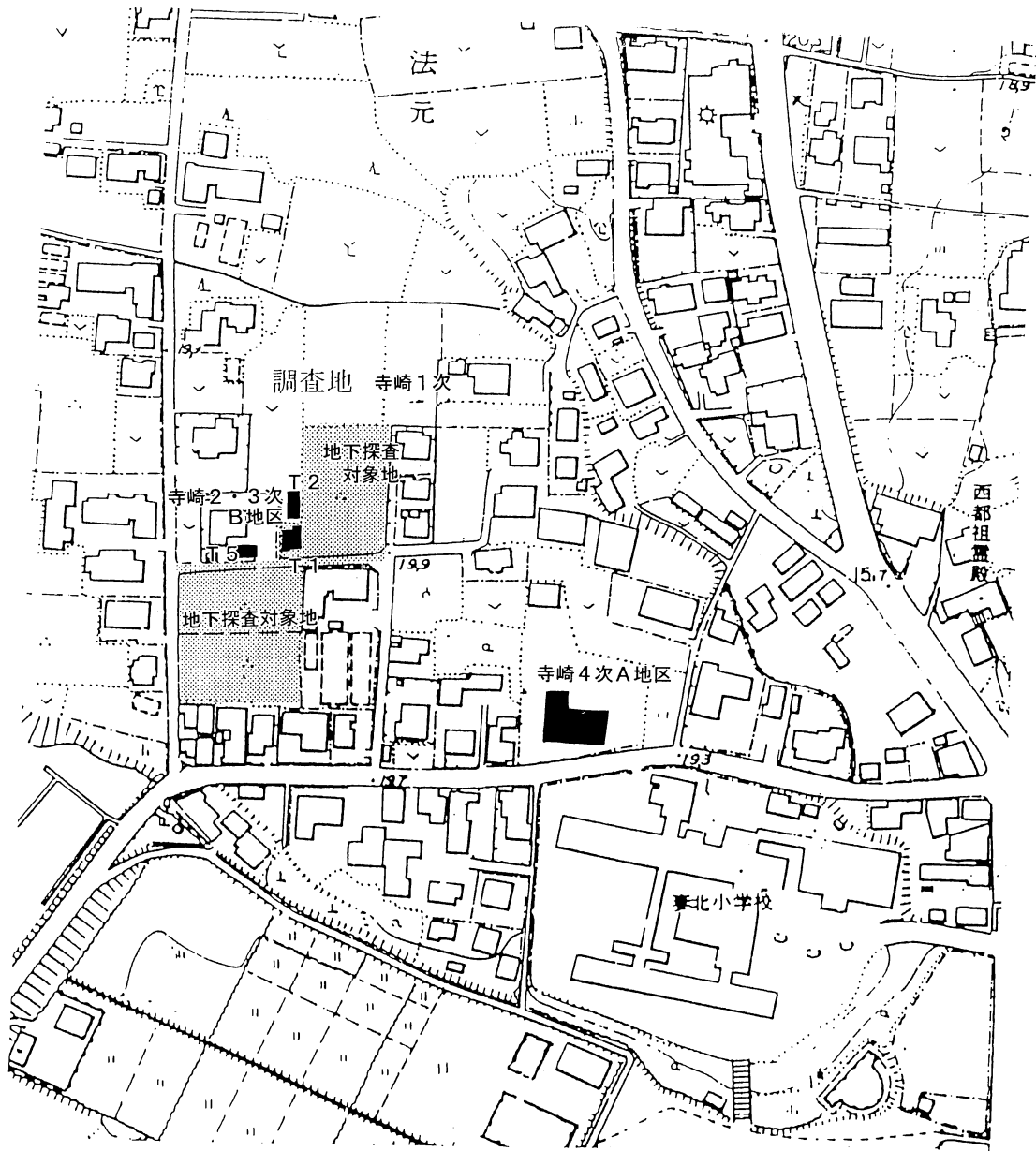
1・2は寺崎4次遺跡、格子目叩きを中心とした瓦は、国分尼寺推定地である諏訪遺跡（2次）調査の結果出土したものである。

1) 丸瓦（第5図1）

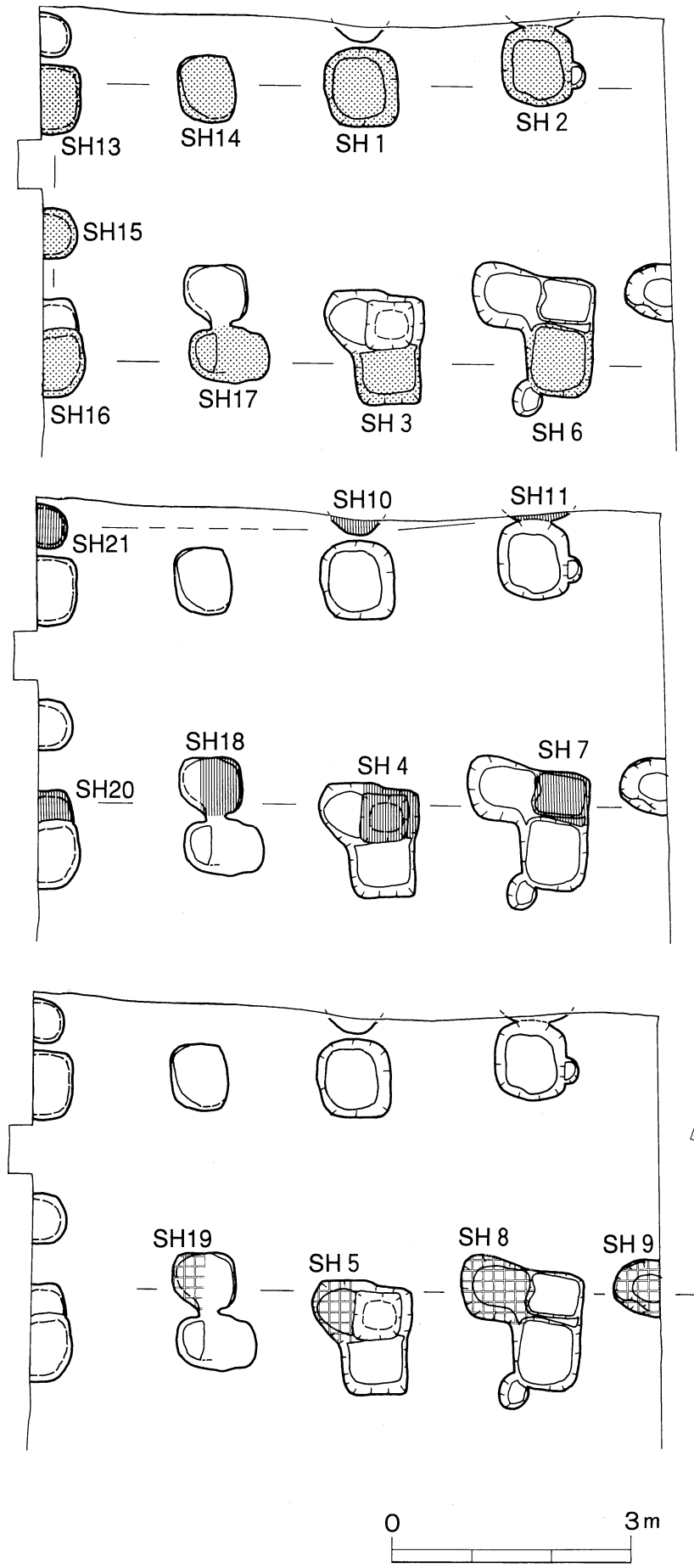
1は、凸面が平行叩きで、凹面は布面痕の上からナデ消している。平行叩きは5cm幅に7条の溝がある。筒部の端面と段部の側面に面取を施している。

2) 平瓦 (第5図2~6)

2・5は、凸面が横粗縄目叩きで凸面が布目の1類、6は、凹面に布痕の後縦方向にナデを施し凸面側に段を有し凹面側に面取を施している。3は、凸面が正格子目叩き凹面は縦方向のナデ調整であり、4は、凹面に布目痕を残す。



第3図 寺崎遺跡1~4次調査区 (1:1,500)



第4図 寺崎2・3次建物想定史跡図

第3章 まとめ

平成3年度から平成7年度の3か年にわたって行われた国衙・郡衙・古寺跡等範囲確認調査の結果、以下のことが分った。

まず、国府の所在地に関して、中間台地上の都萬神社と稚児殿池に挟まれた寺崎地区一帯の推定地D（上妻～芻田）が有力な候補地となった。平成2年度の寺崎1次の調査で、方形プランの柱穴を有し主軸が東西方向の建物が確認され、畿内地方からの搬入土器と思われる螺旋状の暗文を施した土師器杯蓋が出土し、平成5・6年度の寺崎2次・3次調査の結果、東西方向に主軸を持つ2間×4間以上の掘立柱建物および方形プランを有し主軸が南北方向の建物が確認され、南北方向の区画溝と考えられる溝状遺構が検出されている。また、遺物の面からも7世紀末～8世紀後半の須恵器・転用硯・凸面横縄目叩きの平瓦が出土している。平成7年度の寺崎4次調査においても、地下レーダー探査の結果、区画溝と推定される溝状遺構の反応が南側の茶畑で確認されている。また法元地区において、東西方向の溝状遺構および格子目叩きの平瓦や横縄目叩きの平瓦が確認され北限の可能性が考えられる。

また、国分尼寺推定地の諏訪遺跡では、南北方向の溝状遺構および方形プランを有する柱穴が確認され、格子目叩きの平瓦が出土しているが建物の一部を復元するには至らなかった。

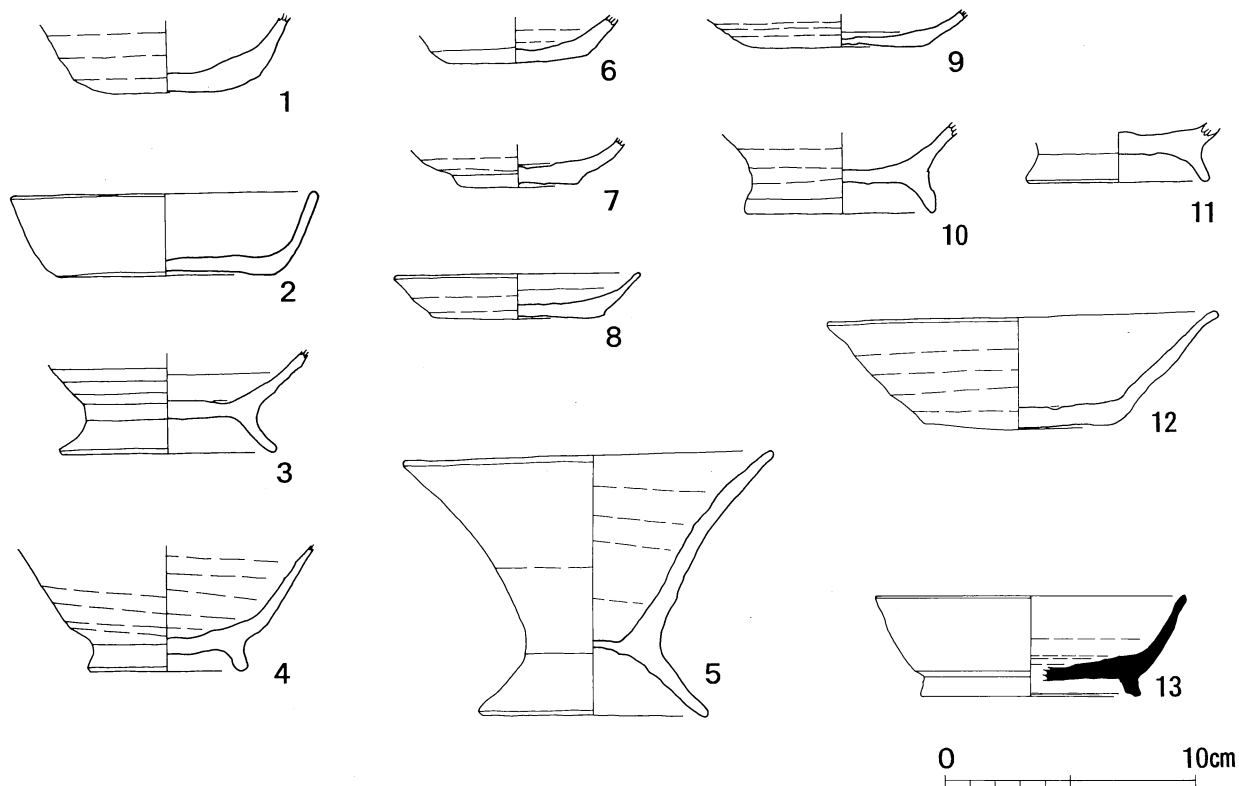
以上のように5か年にわたる範囲確認調査の結果、国府推定地が絞り込まれてきたのは大きな成果であるといえる。今後、諸般の事情で調査を中断した推定地南側のA地区の調査・地下レーダー探査で得られた溝状遺構の調査による検証等により国府の範囲・政庁域などを確認していく必要がある。

- 文献1 宮崎県教育委員会『国衙・郡衙・古寺跡等遺跡詳細分布調査概要報告書Ⅰ』1989
2 宮崎県教育委員会『国衙・郡衙・古寺跡等遺跡詳細分布調査概要報告書Ⅱ』1990
3 宮崎県教育委員会『国衙・郡衙・古寺跡等遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ』1991
4 宮崎県教育委員会『国衙・郡衙・古寺跡等範囲確認調査概要報告書Ⅰ』1992
5 宮崎県教育委員会『国衙・郡衙・古寺跡等範囲確認調査概要報告書Ⅱ』1993
6 宮崎県教育委員会『国衙・郡衙・古寺跡等範囲確認調査概要報告書Ⅲ』1994
7 宮崎県教育委員会『国衙・郡衙・古寺跡等範囲確認調査概要報告書Ⅳ』1995
8 佐土原町教育委員会「佐土原町遺跡詳細分布調査報告書」『佐土原町文化財調査報告書』第5集 1991
9 西都市教育委員会「上尾筋遺跡・下尾筋遺跡」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第11集 1190
10 西都市教育委員会「上妻遺跡他」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告書』第14集 1991

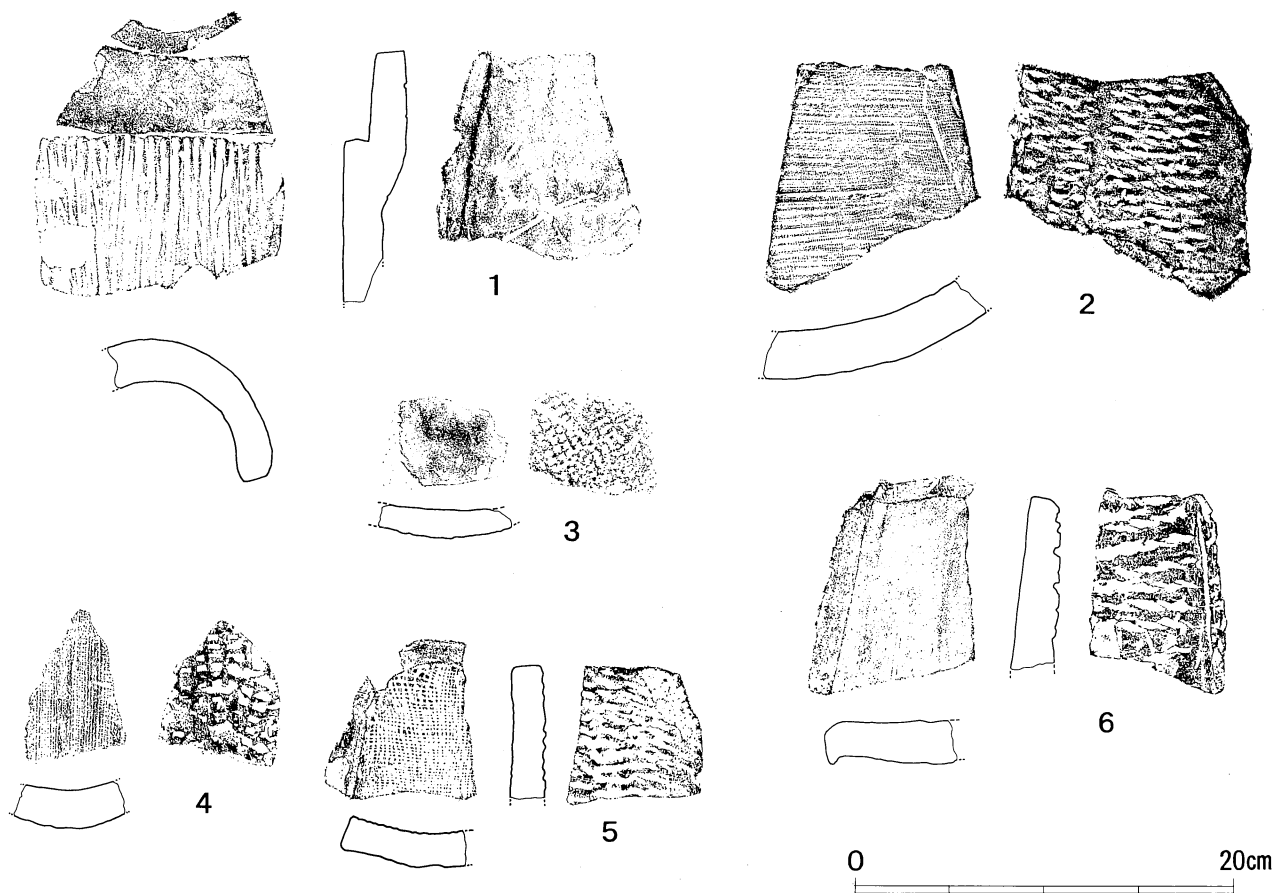
註（1）木下良「西都原古墳群と日向国府」『地形図に歴史を読む』4 1972

木下良「日向国府の変遷」『人文研究』60 1974

木下良『国府』1988

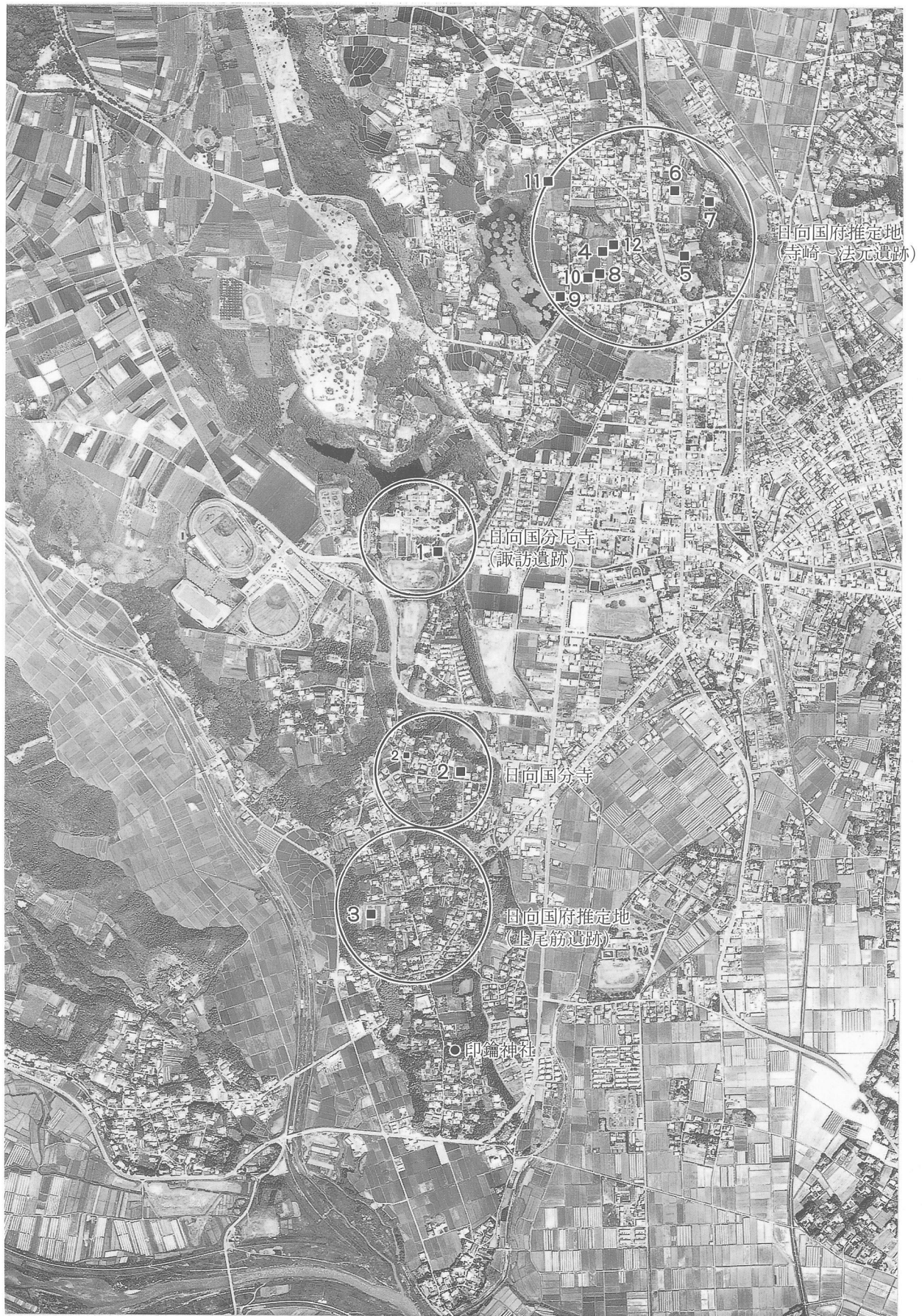


(1～5 諏訪遺跡、6～13寺崎4次遺跡)



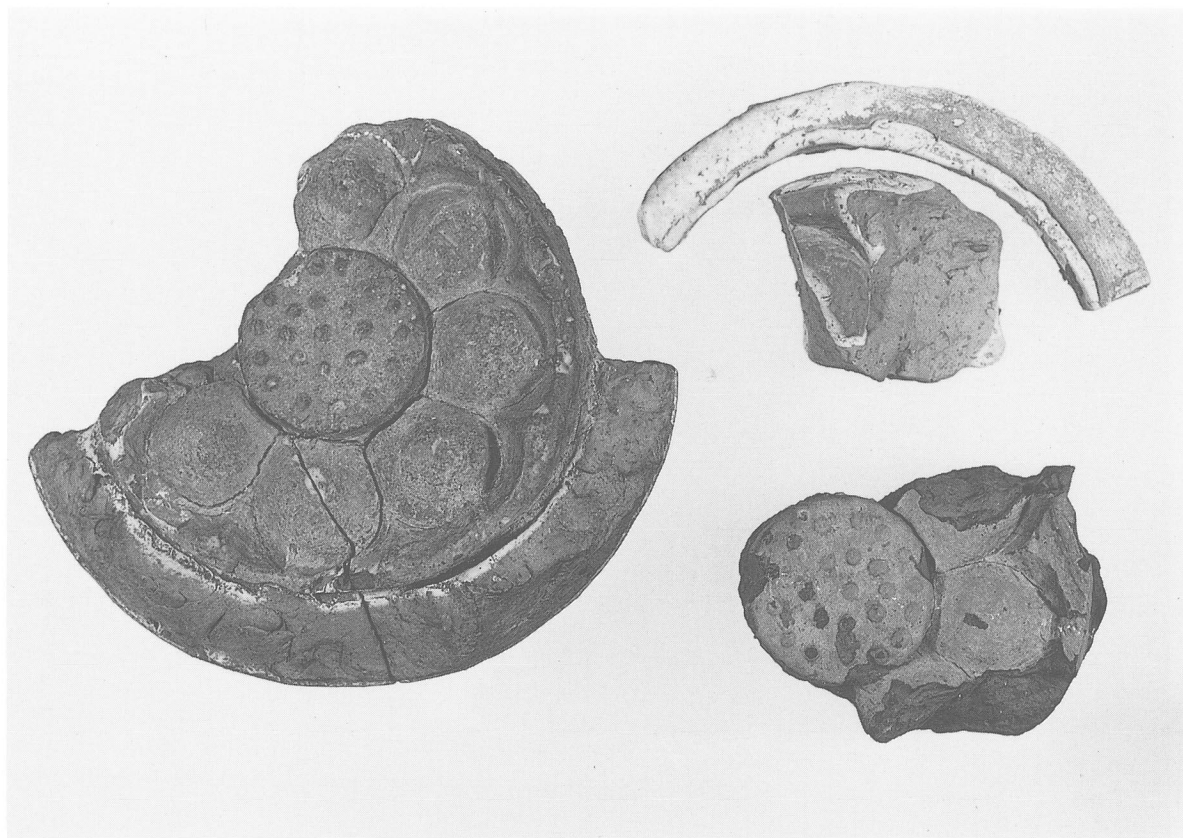
(1・2は寺崎遺跡4次・3～6 諏訪遺跡2次)

第5図 出土遺物実測図

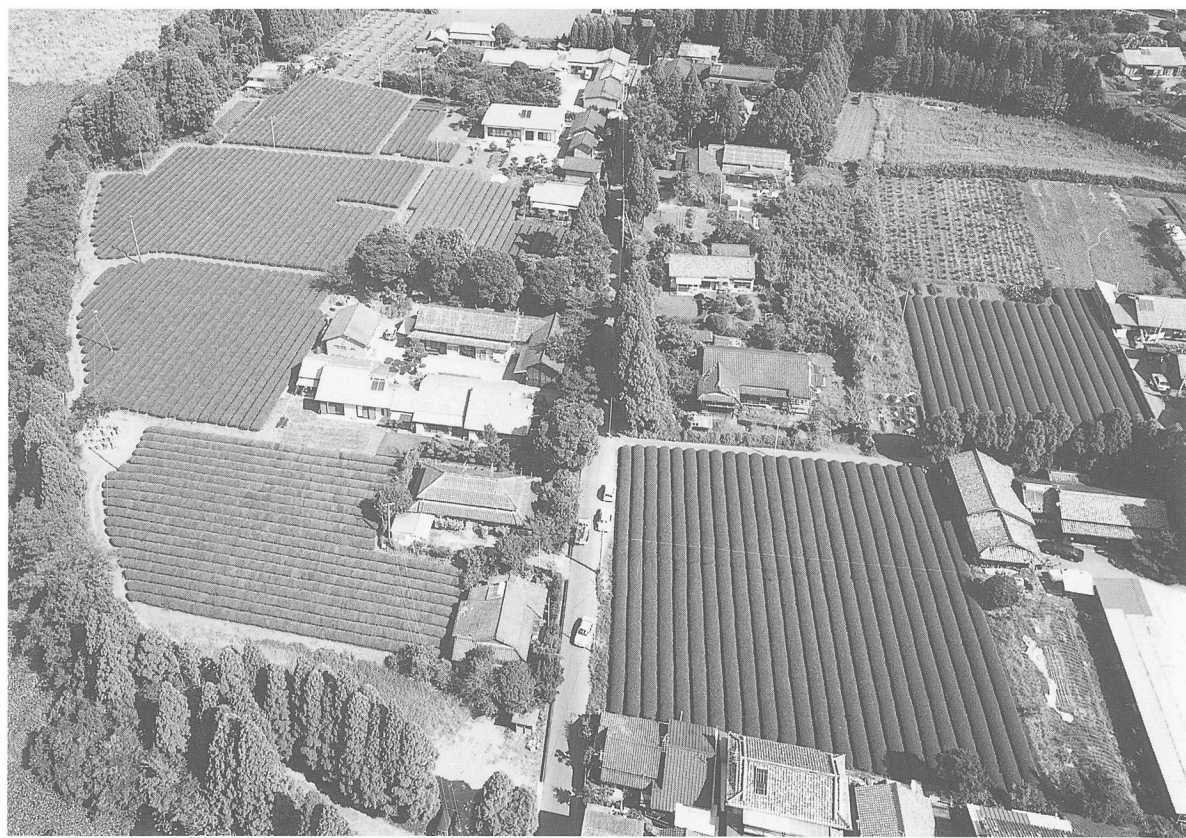


西都市調査地周辺の地形

1. 昭和63年度試掘調査地 2・3. 平成元年度試掘調査地 4. 平成2年度試掘調査地
 5. 平成3年度試掘調査地 6・7. 平成4年度試掘調査地 8. 平成5年度試掘調査地
 9・10・11・12. 平成6年度試掘調査地 13・14・15・16. 平成7年度試掘調査地



上妻遺跡出土軒丸瓦



寺崎地区遠景



寺崎遺跡 3次・4次柱穴検出状況（東より）



寺崎遺跡 3次遺構検出状況（南より）

**国簡・郡簡・古寺跡等
範囲確認調査報告書 V**

1996年3月

発行 宮崎県教育委員会
編集 宮崎県教育庁文化課
〒880 宮崎市橘通東1-9-10
電話 0985(26)7251
印刷 有限会社富士写真印刷
〒880-02 宮崎郡佐土原町
電話 0985(74)2179